

環境報告書

1、環境方針

(環境理念)

(株)山形パッケージセンターはロジステックス専門企業として、環境保全の重要性を深く認識し、保管、運輸、流通加工などの事業活動を通じて、自然環境の保全に留意し、循環型社会の形成をめざし、地域、地球環境の維持、向上に貢献する。

(環境方針)

1. 事業運営において、環境マネジメントシステムを構築し、運用する。
2. 当社の事業活動における環境側面を認識し、継続的な環境マネジメントシステムの向上と環境汚染の予防に努める。
3. 環境側面に適用可能な法令、条例および当社が受入れた利害関係者の要求事項を順守する。
4. 以下の項目ごとに目的、目標を定め、継続的改善を推進するとともに、内部監査結果などにより見直しを行う。
 - ① 消費エネルギーの削減
 - ② 処理委託廃棄物量の低減
 - ③ 危険物及び化学物質の管理強化
5. 当社の全従業員は、本方針を認識し構築した環境マネジメントシステムを有効に活用する。
6. 本方針は、全従業員に周知するとともに、一般にも公開する。

(株)山形パッケージセンター

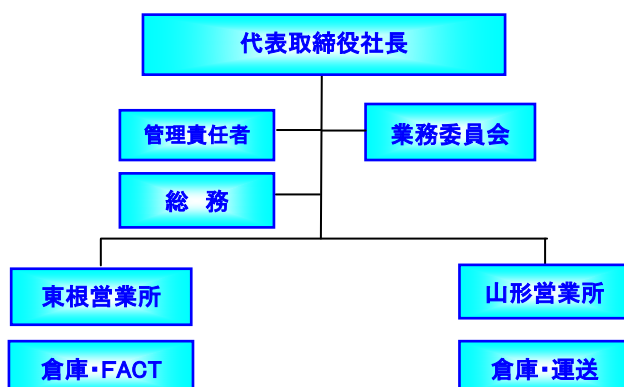
代表取締役社長

井川 啓章

2015年3月13日

2、環境マネジメントシステム

1) 推進体制



2) 環境監査

環境マネジメントシステムが有効かどうか内部監査を年 1 回以上実施するほか、定期的に認証取得機関による外部監査を実施しています

3) ISO14001 への取り組み

当社は、ISO14001 環境マネジメントシステムが環境保全に有効であると認識し、構内の関連会社と一体となった環境保全活動を推進し、2006 年 10 月 18 日に認証を取得しました。

3、環境行動目標と成果

11年度は、3.11 大震災に関し、国からの節電ガイドラインが-15%を確認し、弊社で推進するための方策を次のとおり検討しました。

- ① 倉庫内の照明を水銀灯から冷陰極型照明器へ変更
- ② 外部シャッターを2重にし、更に高速に開閉できるようにし空調効率を改善
- ③ 窓ガラスに遮熱フィルム貼付
- ④ 冷蔵倉庫の運用改善など

このプロジェクト活動で、**山形県エコ改修推進モデル事業所第1号に認定**され、補助金を頂きました。

結果は、<表>に示しますが、改善工事終了が8月中旬で、3ヶ月半ほどで-20%です。

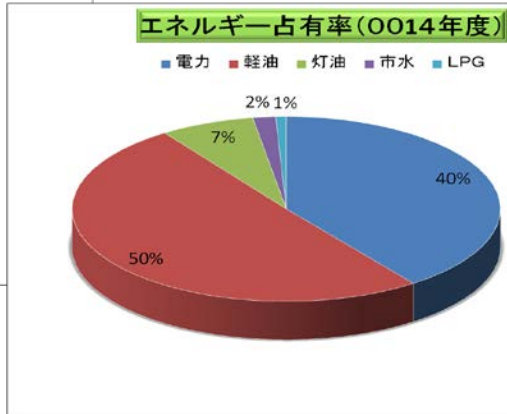
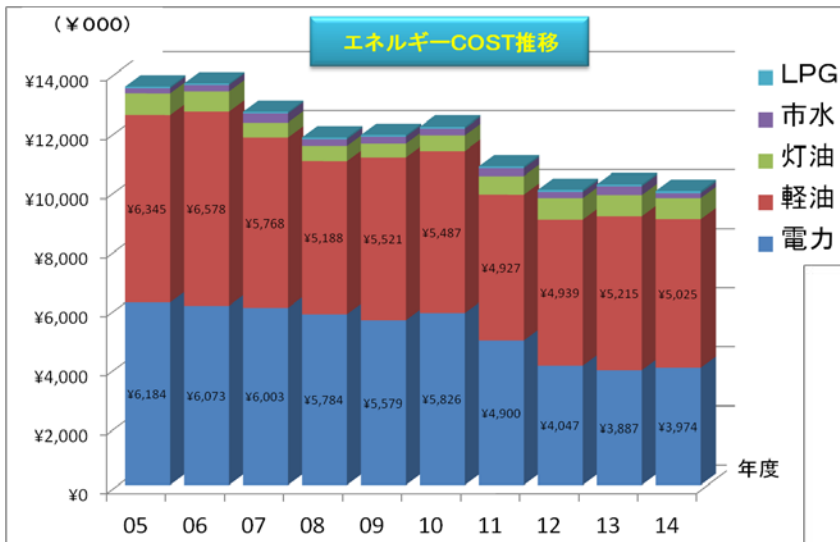
2012年度の**会計収支で初めて赤字から黒字に**転換できました。

1) 環境方針に基づいて行動目標を定め活動を展開しています。

行動目標に対する 2013 年度の主な活動結果は次の通りです

<表 1>

活動項目	主な行動目標	主な結果
省エネルギー (グラフ1、2 参照)	① 電力量を 2005 年度対比 2015 年度までに 7%削減する ② 運送トラック燃料を 2005 年度対比 2015 年度までに 4%削減する	① -37.1%削減 電力量のデマンド管理でピークカット、庫内照明 CGFL 化 2 重高速シャッター設置で熱効果を改善、 ② -17.8%削減 トラック燃料は、アイドリング停止活動、エコ運転教育を実施
廃棄物削減/省資源・リサイクル	① 分別排出の徹底やリサイクルの拡大により 2005 年度対比 2015 年度までに 4%削減する。	① -33%削減 プラスチックの資源化を推進し、分別や意識向上。
危険物保管管理	危険物指定数量の法順守 危険物(含化学物質)流出ゼロ	指定数量日々管理システム構築維持管理 流出時の対応と準備訓練



4、環境教育とコミュニケーション

1) 環境教育

環境意識の高揚を図るため、各部門及び推進事務局において毎年環境教育を計画し実施しています。内容は、自覚、訓練、能力教育を社内及び外部セミナーへの参加を実施しています。また、法的資格取得や、外部セミナー等へも積極的に参加支援しています。

2) 地域社会の環境保全

「美しい心、美しい企業」を合言葉に、美しい山形の自然環境保全のため、地域周辺のクリーン作戦を全社あげて実施(下図参照)しています。また、全社員にエコバックを配付し意識の高揚に努めています。



本社・東根営業所の地域清掃



山形営業所は放射線の影響もあり、4年ぶりの側溝の汚泥掃除

3) 「環境報告書」をホームページで公開

当社のホームページで環境報告書を掲載し、環境に関する情報公開をしています。

5、環境会計

～環境保全のためにいくら費用を使ったの?～<表2参照>

環境会計では、環境保全活動の収支と効果を明らかにし、投資に対する効果を知ることで、環境経営の効率化や経営資源の適切な配分を図るために活用します。

弊社の2014年度の主要な環境コストは、ISO14001運用コストや教育訓練、**デマンド計を設置しデマンド管理を行い、ピークカット等でコスト低減(表2)を達成できました。**

運輸部門ではトラックなどの輸送車両の自主点検コスト、資源循環活動として包装資材のリサイクル、リスク対策として危険物倉庫の管理強化コストとなっています。

以上

‘14 環境会計報告書 (表 2)

(¥000)

項目	投資		効果	活動内容
	設備投資費	人件費	経済効果 ('05-本年度)	
省資源活動	65	825	3,060	デマンド管理 断熱設備、 エコ運転教育ど
資源循環活動	0	55	—	資源循環教育 資源分別活動
リスク対策	70	175	—	化学物質取扱い 漏洩教育防止教育
環境活動	90	545	—	地域清掃活動 HP 情報公開
合計	225	1,600	3,060	—
収支	(効果-投資)		1,235	—

環境会計収支年度推移(表 3)

(指数)

